

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年10月25日更新

事務事業名		鍼灸費助成事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連					
総合計画体系	政策	2	福祉の健康				所属部	健康福祉部	課長名	澤田 勝矢	
	施策	5	健康づくりの推進				所属課	健康づくり推進課	担当者名	中山 和樹	
	施策の柱	19	病気にならない生活習慣の確立				所属班	国保年金班	(内線)	2138	
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	根拠法令	合志市国民健康保険はり・きゅう施術利用規則		成果優先度評価結果	⑦
		国保	8	1	2	10363				コスト削減優先度評価結果	—
終了、開始年度		☐ 28年度で終了 ☐ 28年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	一世帯あたり年間30枚を限度とし、申請に基づき交付する事業である。合志市指定施術所のみ対象となり、1回当たり1,000円を補助する。保健事業の一つとして、新市発足時から実施している。(旧町時代2町とも実施)。平成20年度より後期高齢者医療制度の創設に伴い、国民健康保険から後期高齢者医療制度に移行された分、国保からの負担が減った。
【業務の流れ】	被保険者が申請し、過去の交付実績や納税状況を調べ利用券を印刷し交付する。
【主な予算費目】	08保健事業費 01保健事業費 02鍼灸費
【意見や要望】	はりきゅうの利用者からは補助があり助かっていると支持を得ている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動) (DO)		29年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
申請者に補助券を交付し、指定施術所からの請求に応じ支払う。		28年度と同様。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア 交付世帯数	世帯		
→ イ 交付枚数	枚		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	
合志市民(国保加入者)	世帯	→ ア 国保世帯	
		→ イ	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	
鍼灸をして患部の改善を図る	枚	→ ア 鍼灸券使用枚数	
		→ イ	
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠 使用枚数がそのまま鍼灸利用者になるため。			総トータルコスト 全体計画 ～ 年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込
① 活動指標	ア 世帯		82	59	100	80	100	100	100	100
	イ 枚		2,095	1,555	3,000	2,075	3,000	3,000	3,000	0
② 対象指標	ア 世帯		7,344	7,285	7,200	7,189	7,200	7,200	7,200	0
	イ									
③ 成果指標	ア 枚		878	562	800	814	800	800	800	800
	イ									
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	876	741	960	960	960	960	
	(A) 事業費計		千円	876	741	960	960	960	960	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
			千円							
人件 費	正 規 職 員 従 事 人 数		人	5	5	5	5	5	5	0
		延べ業務時間	時間	60	60	80	70	0	0	0
	(B) 人件費計		千円	239	222	318	0	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)			千円	1,115	963	1,278	0	960	960	0

事務事業名	鍼灸費助成事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	---------	-----	-------	-----	----------

2 評価の部（CHECK）

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☒ 達成した 目標を達成しており、鍼灸券の周知が浸透してきていると考えられる。
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある⇒【理由】 ☒ 向上余地がない⇒【理由】 整形外科的治療で効果がみとめられないものについては、一定の成果がはかれるものと思われる。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない⇒【理由】 ☒ 他に手段がない⇒【理由】 鍼灸の補助という独立した事業であり、類似した事業は無い。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☒ 削減余地がある⇒【理由】 ☐ 削減余地がない⇒【理由】 平成25年度より一世帯あたりの交付枚数を60枚から30枚へ削減している。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある⇒【理由】 ☒ 削減余地がない⇒【理由】 最低限で実施している。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 ☒ 公平・公正である⇒【理由】 国保世帯すべてを対象としているので公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である⇒【理由】 市で国保の資格を確認する必要があり、個人情報（滞納等）の取扱いの点で困難であると考えられる。

3 評価結果の総括（CHECK）

--

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																						